



LADY SOUL (1962年11月23日・1963年1月30日録音) *ATCO

1作目のBird Callではチャーリー・パーカーゆかりの曲が多かったが、2作目となる本作ではソウル色が前面に押し出され、一部の曲にはR&B風の雰囲気も漂う。彼女のソウルフルな歌とアルト・サクスが、オルガンを含むアーシーなクインテットによって一層引き立てられている。東西両海岸のニューヨークとロサンゼルスで2ヶ所で録音されている。

6

We'll Be Together Again '2:47'

Vi Redd (vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Bucky Pizzarelli (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

人気歌手フランキー・レインのテーマ・ソング。オルガンとピアノを含むコンボをバックに、情感豊かな歌を聴かせる。ここではアルトは吹かずにヴォーカルのみ。

7

Lady Soul '4:43'

Vi Redd (as), Bill Perkins (ts), Jennell Hawkins (org), Barney Kessel (g), Leroy Vinnegar (b), Leroy Harrison (ds)

明確なテーマがないため、即興のブルースと推定されている。スロー・テンポのリズムをバックに、彼女のアルト、その後テナー、ギターとソウルフルなソロが続き、再び彼女のソロで締めくくる。名演。

8

Ah Sweet Mystery Of Life '2:28'

Vi Redd (as,vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Barney Kessel (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

1910年オペレッタのために書かれた曲。ここではミディアム・テンポのスインガーとして彼女が歌うが、専門のソウル・シンガーに迫るような上手さと味がある。

9

This Love Of Mine '4:43'

Vi Redd (as,vo), Dick Hyman (p), Paul Griffin (org), Barney Kessel (g), Ben Tucker (b), Dave Bailey (ds)

1941年当時トミー・ドーシー楽団の専属歌手だったフランク・シナトラの持ちネタ曲。彼女はピアノとオルガンをバックに情感豊かに歌い上げ、後半ではアルト・ソロも披露する。

10

Salty Papa Blues '2:42'

Vi Redd (as,vo), Bill Perkins (fl), Jennell Hawkins (org), Barney Kessel (g), Leroy Vinnegar (b), Leroy Harrison (ds)

レナード・フェザーが用意したシャッフル・ビートのブルース。彼女のアルトとソウルフルな歌は勿論、そのバックに流れるギターとフルートのオブリガートが絶品。



Vi Redd その他の参加アルバム

Now's The Time

Marian McPartland (p), Mary Osborne (g), Vi Redd (as), Lynn Milano (b), Dottie Dodgion (ds)

1977年、女性ミュージシャンのみのクインテットによるニューヨークでのライブ録音。